

的意識と思考力の発達について整理したものである。

一応、地歴両分野における生徒の意識・能力が  
このように発達するものと考え、その発達段階を

考慮し、毎日の授業を展開するわけであるが、さ  
らにこの学年発達段階をふまえた単元を計画して  
みたわけである。

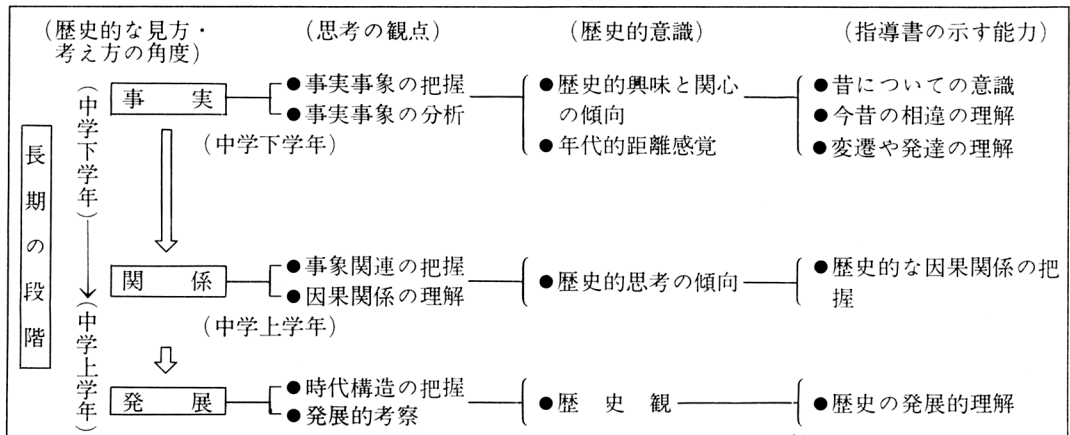


図3 学年別に発達する歴史的意識と思考力(島根県立教育センター作成)

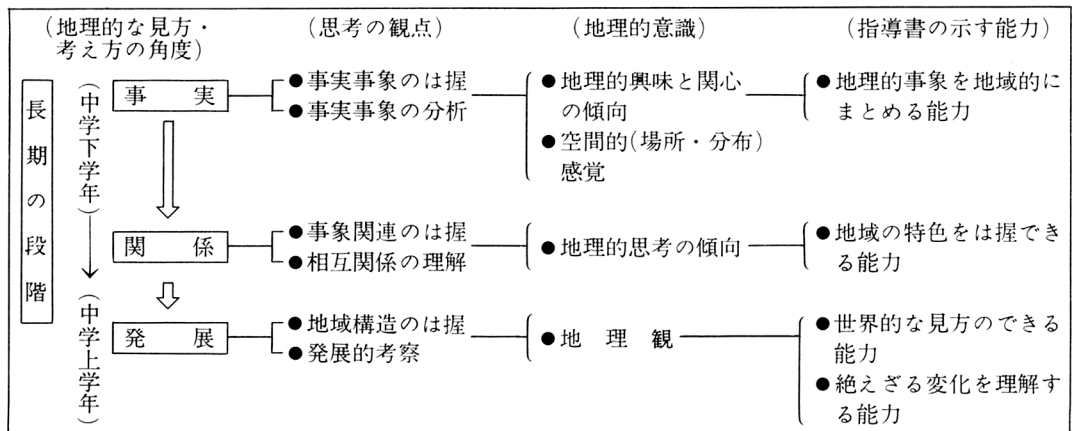


図4 学年別に発達する地理的意識と思考力(福島県教育センター作成)

この試案を図解したのが図5である。各学年の  
始め、または終りにこの単元をおき導入、整理・  
終末の役割も果たす。この単元を仮りに融合単元  
と呼ぶ。

第1学年の始めの融合単元は、一応「文明のお  
こり」とした。予想される指導内容としては、歴  
史的な分野における日本の原始時代文化を中心に地  
理的な分野における地形・気候などを関連づけたも  
のが考えられる。さらに地形や気候と関係の深い  
世界の四大河文明につながることによって「世界地

誌」学習への窓口とすることができる。

この学習では、小学校で学習した認識などを十  
分に活用させることはもちろんであるが、さらに  
郷土にある古墳を見学させたり、出土品や写真を見  
せたりする、いわゆる身近にあるもの、より具  
体的なものから事実を把握させるように指導した  
い。

なお、授業時数計算のために第1学年では歴史  
的分野を、第2学年では地理的分野を中心に構成  
し、それぞれの分野の時数として計算することが